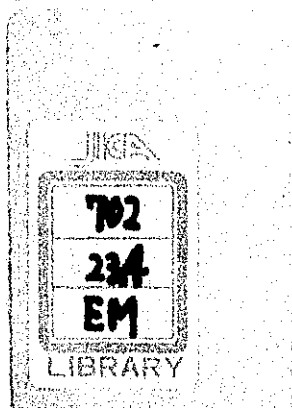
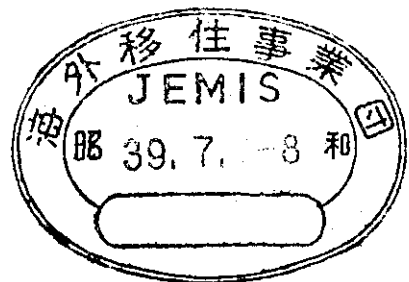


7-1

サンファン農業協同組合
決算諸表とその分析



海外移住事業団

国際協力事業団

受入 月日	84. 8. 14	702
		23.4
登録No.	02954	EM

ま え が き

この資料はポリビア・サン フアン農業協同組合の予算決算書と、これを
サンタクルス支部で分析したものである。

なおサン フアン地区邦人入植者一覧表を添付した。

1964年6月

海外移住事業団
調査課

JICA LIBRARY



1054111[8]

1964年度収支予算書

\$ b

収入の部		摘 要		支出の部	
合計	内 訳			内 訳	合計
		(事業収入)	(経 費)		472,721
472,721		販売手数料	通常経費	134,419	
	132,000	購売部益金	購売経費	107,888	
	183,325	精米部益金	精米部経費	191,015	
	157,400		負債償還積立引当金	59,399	
97,608		(事業外収入)	(事業外経費)		97,608
	57,024	行政部取入金 賦課金	教育費	83,100	
	1,584	自警団経費	自警団費	1,584	
	36,000	学童月謝	一般経費	9,924	
	3,000	諸手数料	行事費	3,000	

購 売 部 経 費

内 訳	摘 要	金 額
人 件 費	12名分	35,418
仕 入 経 費	1964年仕入経費	31,470
営 繕 費		5,000
出 張 費	S販閉鎖に伴う仕入経費	12,000
	合 計	83,888

燃料、販売 人件費

内 訳	摘 要	金 額
燃 料 販 売	人件費 2名	1 3,000
	各販売所の油輸送費	6,300
	ドラム缶破損料引当	1,700
	営 購 費	3,000
合 計		24,000

精 米 所 経 費

内 訳	摘 要	金 額
人 件 費	42,000 精米加工に要する経費	47,334 437
消 耗 品 費	上記精米期間に要する油 ベルト, その他	20,250
原 価 償 却 費	建物20年建設費10年機械	52,573
支 払 金 利	精米所融資\$ b 587435に対する6%	39,358
営 購 費	工場家屋の補修見積額	4,000
修 理 費		4,500
予 備 費		3,000
合 計		171,015

行 政 部 経 費

内 訳	摘 要	金 額
教 育 費	教育委員会予算引当金	83,100
自 警 団 費	防犯及び其の他	1,584
一 般 経 費	諸手当及び予備費	9,924
行 事 費	運動会 其の他	3,000
合 計		97,608

販 売 手 数 料

内 訳	摘 要	金 額
米	販売総量 55,000 × 60,000 × 4%	132,000 -
合 計		132,000 -

精 米 部 益 金

内 訳	摘 要	金 額
乾 燥 料	10,000 × 2. 1月当0.50	20,000 -
精 米 料	42,000 × 3.20 - 1月当0.80	134,400 -
雑 収 入	糠販売料金	3,000 -
合 計		157,400 -

購 売 部 益 金

内 訳	摘 要	金 額
商 品	月平均 70000の売上見積 利益金売上×0.15)	26,000 -
燃 料 類	ガソリン 172200ℓ×0.60×0.2	20,664 -
	石 油 77800ℓ×0.40×0.5	15,560 -
	重 油 91500ℓ×0.55×0.3	15,097.50
	オイル 4000ℓ×10×0.15	6,000 -
合 計		183,321.50

行 政 部 益 金

内 訳	摘 要	金 額
賦 課 金	264名×18×12	57,024
自 警 団 費	264名×6	1,584
学 童 月 謝	300名×10×12	36,000
諸 収 入	諸行事に対する寄附金見積	3,000
	合 計	97,608

一 般 経 費

内 訳	摘 要	金 額
人 件 費	51,498÷9×12	68,664
臨 時 雇 員	7,335÷9×12	9,780
事 務 費	5,272÷9×12(20%)	4,687
会 議 費	4,314÷9×12(20%)	3,835
調 査 費	880÷9×12	1,176
旅 費 日 当	7,420÷9×12	8,415
交 通 費	11,512÷9×12(30%)	10,752
渉 外 費	2,305÷9×12	3,072
慶 弔 費	1,290÷9×12	1,716
家 賃 及 光 熱 費	1,730÷9×12	2,568
器 具 費	885÷9×12	1,176
管 膳 費	984÷9×12	1,512
雑 費	950÷9×12	1,266
予 備 費		10,000
連 絡 費	S事務所閉鎖に伴う連絡その他	6,000
	合 計	134,419

貸 借 对 照 表

1963年12月25日現在

借 方	摘 要	貸 方
64,781,050-	現 金 借 入 金	3,566,467.040-
6,362,110-	当座預金 預り金	57,762,385-
33,542,615-	S出張所 仮受金	25,300,502.80
14,743,679-	仮払金 未払金	438,546,886-
1,033,300-	立替金 受託米	40,371,980-
291,957,002-	未収金 買掛金	146,153,342-
2,368,804,878.60	貸付金 共済基金	15,466,700-
53,945,021-	売掛金 出資金	161,400,000-
117,133,023-	商 品	
2,065,000-	仕入部	
14,412,868-	利用部	
6,191,875-	精米部	
18,303,700-	行政部	
991,976,203.99	固定資産	
360,752,022.21	繰越損益	
105,464,488-	当期損失額	
4,451,468,835.80		4,451,468,835.80

第 4 期

決 算 表

～1963年12月25日現在～

サンファン農業協同組合

損 益 計 算 書

1963年4月1日~1963年12月25日間

損失の部	摘 要	利益の部
	<u>事業収益総額</u>	124,500,221
	販売部益金 45,203,780	
	購買部 " 55,514,679	
	利用部 " 8,378,401	
	精米部 " 15,403,361	
35,458,998	<u>事業損失合計</u>	
	受託米による損失 35,458,998	
146,585,171	<u>一般経費総額</u>	
	本部経費 96,563,821	
	S市出張所 " 50,021,350	
	(差引事業損失 57,543,948)	
	<u>事業外収益総額</u>	352,623,242
	賦課金収入 40,134,000	
	学童月謝 " 25,538,000	
	受取金利 " 253,244,424	
	詰収入 " 5,892,557	
	寄附金 " 27,814,261	
400,543,782	<u>事業外経費総額</u>	
	行政部経費 7,719,090	
	労働契約 " 220,000	
	教育助成金 1,130,000	
	支払金利 232,144,370	
	雑損失 2,824,488	
	減価償却費 87,034,024	
	(差引事業外損失 47,920,540)	
	<u>当期損失総額</u>	105,464,488
582,587,951		582,587,951

科目別損益計算書 1

摘 要	損 失 の 部	利 益 の 部
(販 売 部)		
販 売 米 手 数 料 合 計		50,743,880
販 売 部 経 費 合 計	5,540,100	
当 期 益 金	45,203,780	
	50,743,880	50,743,880
(購 買 部)		
売 上 総 額		421,510,710
仕 入 総 額	363,700,665	
期 末 繰 越 高	30,590,057	
期 末 棚 卸 高		49,149,422
(販 売 総 益 金 76,369,410)		
経 費 合 計	20,788,143	
当 期 純 利 金	55,581,267	
	470,660,132	470,660,132
(行 政 部)		
賦 課 金 収 入 合 計		40,134,000
学 童 月 謝 収 入 合 計		25,538,000
勞 働 契 約 用 紙 損 失	220,000	
教 育 助 成 金	1,130,000	
経 費 合 計	77,190,900	
(当 期 収 支 不 足 額)		12,868,900
	78,540,900	78,540,900

科目別損益計算書 2

1963年4月1日~1963年12月25日

摘 要	損失の部	利益の部
(利用部)		
26k飯米精米所収入	920,856	
" 経費合計	976,900	
" (当期損失額)	56,044	
12k飯米精米所収入	3,232,069	
" 経費合計	3,125,844	
" (当期益金)		106,225
組合カミオン運賃収入	23,658,615	
" 経費合計	20,455,700	
" (当期益金)		3,202,915
組合食堂		
(当期損失)	2,488,150	
S市宿泊所収入合計	7,724,260	
" 経費合計	8,685,100	
(当期損失)	960,840	
集荷運賃収支不足額	1,647,967	
出荷運賃収支余剰金		2,277,297
積降料 "		6,388,040
加工料 "		1,556,925
差引当期余剰額	8,378,401	
	13,531,402	13,531,402
(精米部)		30,920,929
精米料合計		340,535
粉砕料 "		1,048,600
米糖売上 "		
経費総額 "	16,906,703	
当期純益 "	15,409,361	
	32,310,064	32,310,064

預 け 金

摘 要	金 額	摘 要	金 額
古 木 良 八	3,909,045	西 沢 運 輸	120,140
田 中 正 人	1,704,300	出 合 勝 雄	2,381,600
職 員 厚 生 費	748,250	吉 原 六 郎	971,223
福 満 富 男	8,927	田 島 健 児	4,000
阿 部 直 治	60,000		
八 田 光 雄	3,612,000		
武 田 物 資	43,045,900		
窪 内 氏 物 品	1,197,000	合 計	57,762,385

買 掛 金

摘 要	金 額	摘 要	金 額
ピ ー ル 会 社	13,251,700	SERVICIO AGRICOLA COMERCIAL	127,18642
庄 島 商 店	5,443,000		
杉 本 泰 彦	340,000	合 計	146,153342

未 払 金

摘 要	金 額	摘 要	金 額
N I L O 運 輸	1,691,828	中 村 運 輸	134,240
杉 本 運 輸	227,500	パスポート手数料	5,426,000
赤 島 要 蔵	20,000	武 井 運 輸	278,24
土 居 平 三	100,000	宮 前 善 一	46,000
福 島 信 夫	26,000	金利(IONIA)	14,851,254
G R A C E 商 会	21,862,314		
平 山 勝 雄	1,009,730		
金利(移住事業団)	393,124,200	合 計	43,854,6886

借 入 金

摘 要	金 額	摘 要	金 額
C O N G A	182,150,000		
移住事業団(長期)	1,159,915,080		
〃 (短期)	2,224,401,960	合 計	3,566,467,040

仮 受 金

摘 要	金 額	摘 要	金 額
浅野利喜夫	20,000	SAN JUAN 高校	130,000
浅沼力夫	129,900	S 市出張所	50,000
第三販売所	56,500	SAN JUAN高生徒会	660,000
DANIEL TRICO	2,000,000	清家宗英	9,300
深浦初之	15,500	笹子与夫	60,000
白米代金一時預り	3,222,000	柴山久子	60,000
羽生静司	100,000	種苗代預り	1,776,000
岩佐栄治	322,100	鳥屋健作	350
池田篤雄	1,000,000	高梨隆隆	47,472.80
教会寄付金	55,000	上田貞雄	120,000
区長手当・合計残高	270,000	山崎作一	1,103,000
高等学校	704,050	山口九重	1,546,050
川原琢郎	298,251	肥後貞信	185,500
組合受託米売上金	1,765,325	松崎輝雄	10,000
松本英安	10,000		
前田弘	5,000		
西正義	226,000		
西川正子	110,000		
苗木代	1,224,000		
中尾進	6,804		
長谷幸枝	1,400		
年未賞与預り	7,900,000		
縮方楨二	90,000		
追野一英	11,000	合 計	25,300,502.80

仮 払 金

摘 要	金 額	摘 要	金 額
BOLIVAR精米所支配人	54,000	松 本 忠 良	3,000
土 井 智	1,000,000	宮 原 定	81,000
第一販売所	100,000	森 田 組 合 長	83,500
第二 "	7,950	西 沢 清	120,000
第五 "	96,270	奥 村 義 守	100,000
第九 "	16,130	労働者身分証明書用紙代	850,500
日比野卯門	124,200	笹 子 与 夫	137,000
橋 村 守 之	47,500	佐 藤 久	2,000,000
池 端 清 八	300,000	島 津 泰 弘	103,300
伊 藤 晃	570,000	SAN MARTIN精米所	2,500,000
CAPITAN トーレス	145,000	田 島 浩 司	830,029
加 藤 重 信	80,000	田 島 英 児	400,000
小 林 春 吉	145,000	田 口 雅 彦	55,000
空 瓶 保 証 金	3,000,000	山 口 博 美	50,000
教 育 委 員 会	654,300		
共 励 区 小 学 校	500,000		
金 森 武 彦	670,000	合 計	14,743,679

立 替 金

足 立 啓 蔵	65,000	青 年 会	290,000
肥 後 米 男	25,000	佐 藤 久	35,000
共 励 区 小 学 校	126,000	柴 山 辰 美	20,000
宮 園 幸	7,500	田 村 徹 衛	183,300
大 橋 留 蔵	20,000	大 和 区 飯 米	41,500
小 田 一 俊	100,000		
六 堀 誠 志	100,000		
早 田 一 郎	20,000	合 計	1,033,300

未 収 金

摘 要	借 方	摘 要	借 方
HIRUVERTO RARADA	68,300	上 田 貞 雄	45,000
カトリック教団	620,000	陣 内 政 二 郎	3,000
一 の 瀬 組	1,427,000	学 童 月 謝	1,482,000
小 副 川 組	111,300	賦 課 金 共 済 基 金	13,330,000
ジュート代金	7,190,700	浜 井 保	30,000
田 村 徹 衛	60,000	鳥 越 テ ル	15,000
中 野 昭 喜	55,000	本 多 昌 平	3,000
S . J . 精 米 所	1,138,948	未 収 金 利	252,136,854
S 市 出 張 所	200,500	鎌 田 運 輸	3,461,234
購 買 部	8,574,810	嶋 田 運 輸	933,956
古 木 良 八	1,070,400	合 計	291,957,002

貸 付 金

管 農 資 金	2,240,704,878.60	/
B H C	128,100,000	
	2,368,804,878.60	

経 費 明 細 書

1963年4月1日~1963年12月25日間

補 助 科 目	本 部	S 市 出 張 所
人 件 費	51,498,000	29,461,600
臨 時 雇 員	7,335,000	
事 務 費	5,271,647	5,699,450
会 議 費	4,313,400	
調 査 費	880,000	
旅 費 及 日 当	7,420,500	817,500
交 通 費	11,511,441	1,386,200
渉 外 費	2,304,466	1,800,000
慶 弔 費	1,290,000	
家 賃 及 光 熱 費	1,930,640	8,963,100
器 具 費	884,842	750,000
営 繕 費	983,783	451,000
雑 費	940,102	692,500
	96,563,821	50,021,350

売 掛 金

摘 要	金 額	摘 要	金 額
小 森 商 店	2,267,265	阿 部 直 治	30,000
Alejandro Coinbra	391,650	坂 梨 千 富	600,000
Aburajam Mendes	391,650	嶋 田 正 成	520,000
Adolfo Chianca	391,650	粉 碎 売 掛	35,885
Dardo Arauz	274,155	飯 米 精 米 料	247,681
Andres Cuellar	469,980	米 糖 売 掛	35,500
Ygnacio Zabara	117,495	マントニロ・モロー	75,600
Luis Oliva	313,320	浜 井 保	105,300
Juan Yargas	156,660	Doviel Crespo	2,000,000
Felide Justiniano	195,825	NILO 運 輸	700,000
Quitleymo Lozano	387,000	売 掛 運 賃	1,000
Dario Vaca	391,650	野 坂 道 教	216,000
Pedro Maeda	1,000,000	大 和 区 診 療 所	76,100
前 田 万 作	132,000	船 山 正 治	197,000
早 田 一 郎	100,000	陣 内 政 次 郎	248,100
藤 川 晶	360,000	阿 部 正 治	18,000
山 根 寛 市	40,000	サンフアン高校	704,500
中 岡 喜 代 晴	58,500	サンフアン製材所	105,000
海協連(杉本殿)	54,000	奥 村 義 守	90,000
追 野 一 英	703,620	共 励 区 P. T. A	29,250
岩 佐 栄 治	80,000	福 田 幾 一	135,000
南 雲 勲	242,500		
大 塚 健 一	456,000		
松 崎 糸 作	650,000		
土 井 智	180,000		
San Juan 青年会	71,585		
奥 金 義	2,610,555		
Vicente Rico	5,882,660	合 計	5,394,502

1963年度

サンフアン農業協同組合

決算書分析

海外移住事業団

サンタクルス支部

各科目別損益計算書

1963年4月1日～1963年12月25日

摘 要	損 失 の 部	利 益 の 部
(飯米精米所)		
精米料収入合計		4,152,925
経費合計	4,102,444	
減価償却費	785,089	
当期損失		734,908
	4,887,833	4,887,833
(組合カミオン)		
運賃収入合計		23,658,615
経費合計	20,455,700	
減価償却費	15,199,310	
(当期収支不足額)		11,996,395
	35,665,010	35,655,010
(精 米 部)		
精米料合計		30,920,929
粉砕料 "		340,535
米糖売上 "		1,048,600
経費総額	16,906,703	
減価償却費	31,425,537	
当期損失額		16,022,146
	48,332,240	48,332,240

本決算報告並にその勘定項目の正確であることを確認いたします。

1963年12月31日

組合長	守	田	菊	春
副組合長	宮	原		定
理事	吉	永	未	雄
理事	岡	田	三	澄
理事	大	堀	誠	志
理事	笹	子	与	夫
理事	岩	永	清	蔵

監 事 意 見 書

吾等監事は1963年4月1日より1963年12月31日に至る組合事業の監査執行に当り、決算報告が正当なものであることを立証いたします。

1964年2月15日

監事長	阿	部	直	治
監事	志	賀	恒	政
監事	岡	根	福	市

一 静 態 分 析

1. 貸借対照表による総資本に対する資産構成比率

科 目	金 額	構 成 比 率 1963 年度	1962 年度	1960 年度
流動資産	\$249,439,60	67.24	70.83	48.38
現金	8,723,81	2.35	2.01	13.87
受取勘定	33,554,37	9.05	11.85	6.02
棚卸資産	9,761,09	2.63	2.10	5.59
貸付金	197,400,41	53.21	54.87	22.90
固定資産	82,664,68	22.29	23.18	49.14
自己資産	4,271,49	1.28	1.06	3.82
借入資産	78,393,19	21.14	22.12	45.32
損失金	3,885,137	10.47	5.99	24.8
合 計	370,955,73	100.00	100.00	100.00

2. 資本負債構成比率

流動負債	\$259,557,25	69.97	69.03	48.17
支払勘定	59,011,25	15.91	7.16	3.98
短期借入金	200,540,00	54.06	61.87	44.19
固定負債・長期借入金	96,659,59	26.06	26.93	44.82
自己資本	14,738,89	3.97	4.04	7.01
組合員出資金	134,500,00	36.2	35.9	67.3
共済基金	128,889	0.35	0.45	0.26

3. 静態比率

(1) 流動比率

190年度, 62年度, 63年度に於ける流動比率を算出すれば次の通り

となる。

	1963年度	1962年度	1960年度
流動比率	96%	100%	103%

すなわち、1960以降その比率は遞減を示して来たが、63年度に於いては、遂にその比率は100%を降り、完全に流動他人資本に対する支払能力のない事を示した。この原因は、損益計算書分析に於いて述べる販売手数料、及購買部利益の減少がその大なるものである。又流動資産の中には下記の通り、半長期的なものを含んでおり、貸付金もその回収に多分に長期間を要するものもあり、1963年度に於ける流動比率は50%以下というのが実際の数字であろう。極めて危険な状態である。

流動資産の中以下のものは、資金をいちじるしく固定せしめ、流動性を失っている。

イ 仮 払 金

個人に対する仮払金の中には、その発生後7~8ヶ月を経過したものがあり、しかも仮払金計上のため利息は計算されてない。行政関係に属する支出(栄町区員失線捜査費BS2,000,000)は5月13日より固定したままである。経済部門よりのこれらの支出は資金固定の原因の一つとなつている。

ロ 未 収 金

渡航前融資利息の事業団への支払を組合が立替え支払い、精算が行われていないものがある。学童月謝、賦課金、共済基金、計BS14,812,000が未収の状態にある。この数字は同科目の年額収入BS70,906,000に対し、20.89%を示すものである。

ハ 売 掛 金

すでに一年を経過したものが多く特に小森商店売掛金は1962年9月より固定したままである。又ポリビア人に対する売掛は、その解決に相当の日時を要するものと思われる。特に融資により購入された農薬BHCを組合員外の現地人労働者に売掛け解決されていないものが多い(1961年度)。

ニ 貸 付 金

旧会社よりの短期営農資金借入金は、総額\$185,366.80
(BS2,224,401,960)コンカよりの借入金\$15,179
(BS182,150,000)計\$200,545.00(BS236,804,878.60)
以上の借入金の中\$197,400.41を組合員に貸付け残額\$3,145.19を他部門に流用している。組合員に対する貸付金は1組合員当り、平均\$733.83となるが、中には\$5,000前後の負債をもつものもあり、その償還に長期間を要するものもある。

1963年度に於ける組合員よりの貸付金回収額は\$72,815.59
(BS873,787,062)新規貸額は\$73,294.30に達している。この金額の示すものは、これらのほとんどが帳簿上書替える無断流用貸付とみなされるのである。組合役員及び組合員は、旧債に対する返済義務の観念薄く販売未代金は帳簿上書替える安易な方法により、受取り(又は個人にて販売して手数料4%のみ納め)販米代金の何割かを旧債に返済して来たものは少い。少くとも旧債額に満たぬ産米は、すべて旧債の担保であり、その売上代金については、一言の権利もなく販売代金より一部次期営農資金として受取る金額は、自分の米の売上代金ではなく、あくまで旧債の中一部支払を猶予された金額であることが徹底された

金額であることが徹底されていない。組合役員もこれらの事実を無視し安易に回収金を無断流用して来たことは遺憾であつた。この考え方は現在日生連発足後も引続いており、新規日生連融資を活用せず、旧債のタライ廻しを行つていることに於いても明らかである。又組合員は、組合よりの借入れに当つて、保証人を立てているが現在迄、返済不能の際、保証人において弁済された例もない。このことも組合員の融資借入れに対する考え方的一端を示すものである。

(2) 酸性検定

貸借対照表構成比率に於いて示されている様に当組合はその資本構成に於いて89%の借入金によつている現状より、短期借入金及貸付金を除外してその酸性検定を行えば

$$\frac{8,723,811 + 3,355,430}{59,011} \times 100 = 71.64\%$$

更に受取勘定より未収金利、支払勘定より支出金利を除外すれば、この比率は81%である。何れにせよ当座資産に於いて他人負債への支払能力なく、流動比率に於いて述べた資金固定を考慮に入れるとこの数字は更に減少するものである。

(3) 資本固定比率

資本構成比率に於いて示された通り、当組合の自己資本は資本総額の3.97%であるのに対し、欠損金は10.47%にのぼり、完全に自己資本は消失し、更にその2倍の借入金が消失している。云い換えれば融資の中で6.5%は消失し、融資及その他の他人資本の93.5のみで運営される。この様な特殊性により、次の算出方法により、資本固定比率を示すと

$$\frac{(\text{自己資本} - \text{欠損金}) + \text{長期借入金}}{\text{固定資産}} \times 100 = 86\%$$

減価償却後といえども当組合の固定資産に対する過大投資が示されている。貸借対照表構成比率に示される固定資産と損失金との関係は次の通りである。

年 度	1963年	1962年	1960年
固 定 資 産	22.29	23.18	49.14
欠 損 金	1.047	5.99	2.48

1960年度より1963年度に到る固定資産の総資本に対する百分比の減少と、欠損金の増加との相対的現象は、損失金の大部分が、固定資産の価値減少に起因することがうかがわれる。1963年度に行われた固定資産の減価償却と、欠損金に対する割合は次の通りである。

品 名	融 資	借入年月日	取得価格	現 在 高	現在の償却額
ブルドーザ	\$2938756	60-11-30	\$2963229	\$1343338	\$1619891
倉庫2棟		62-4-1	750000	685781	64219
精米所	6292203	62-9-1	4915364	4647952	267412
病 棟			300000	282605	17395
トラック	435000	62-11-1	587186	378971	208215
S市土地		61-2-1	500671	-	-
	今期償却額	損失金に対する%			
ブルドーザ	\$237060	2697%			
倉庫2棟	26719	223			
精米所	261879	2980			
病 棟	7395	084			
トラック	126660	1441			
S市土地	-	0			

以上が固定資産の主なものであるが、これら固定資産の現在(63-12-26)迄の、償却額合計\$21,771.31は総損失金に対し、56.03% 今期欠損金に対しては74.25%を占めている。以下組合經理にとって過重な負担となつている。固定資産について検討すると

イ ブルドーザD-7

1960年12月13日当時旧海協連に於いて行つていた。道路造成用機械として購入され現在に及んでいる。すなわち購入後組合活動と完全に切離されたものであつた。この巨額な資産の維持は到底組合經理の能力を超えたものであり、1960年度決算以後常にその減価償却額は欠損金の最も大きな原因となり、組合經理を困乱させて来た。現在迄の償却額計\$16,198.91は、総欠損金の41.69%を占めており、現在迄の支払済利息\$4,527.03、未払利息\$1,548.30の負担も大きい。これをこの際に放置すれば、やがて1964年11月より開始される元金の償還と共に欠損ははるかに増大して、組合活動の方向を誤らしめる原因となるであろう。

ブルドーザに関しては、これに対する長期融資と共にこれを別途勘定とし、組合經理と区分すべきである。

ロ 精米所

1962年度に於いて建設された精米所建設費は次の通りである。

品名	取得価格	現在価格	減価償却額計
機械	\$1490740	\$1341665	\$149075
建造物	23563.19	22974.11	58908
施設	32895	32073	822
工具	40904	32020	8884

創業費	40904	32020	8884
計	\$49,153.64	\$46,479.49	\$ 2674.15

上記の中、精米所建設に当り、その創業費、すなわち無形固定資産が精米所資産の20.23%を占めていることは非常な過重であり、その減価償却と支払元利は、今後の精米所運営に負担となる原因の一つである。

ハ 病 棟

1960年6月旧海協連により建設された病棟建設費\$9,000の中を組合が支払つた。病院経営の組合移管による建設費の消却と考えられるが、現在の如き診療費の未収は、むしろ組合に負担をもたらすものとなる。

以上代表的固定資産につき、その組合財政に及ぼす影響をみたが、これらは早急に解決の方法を構じなければ、組合經理の困乱、融資の返済不能をもたらす結果となることは明かである。ブルドーザ及病棟の如き、補助金切換え以外にその方法はなく、精米所に於いては、その精米能力よりみて、コロニヤ産米のみでは収支に赤字を出す現在、周辺ポリビア人特にヤバカニ対岸の農業者の精米を行い得る態勢をとつて収益を計り又車輛類については、事業団所有の車輛を貸与して側面より、組合財政援助を行うべきと思科される。

ニ 動態分析

1. 損益計算書収益構成比率

科 目	決 算 額	収益総額に対する百分比	損失総額に対する百分比
事業収益	\$1037501	2609	2137
販売部益金	376698	947	776
購買部 "	462622	11.64	953

利用部益金	\$ 69820	176	144
精米部 "	126361	322	264
事業外収益	\$2938527	7391	6053
隨課金収入	334450	841	689
学童月謝	212817	535	438
受取金利	21,103.70	5308	4347
諸収入	491.05	124	101
寄付金収入	231785	583	478
合 計	\$39,760.28	10000	
当期損失金	8788.70		1810
損失総額	48548.98		10000

2. 損失金構成比率

事業損失

受託米損失	\$ 295491	609
一般経費	1221543	25.16
本部経費	804698	16.57
出張所経費	416845	8.59
事業損失計	\$15,170.34	31.25
事業外経費	\$3337864	68.75
行政部経費	6,545.08	13.48
支払金利	1934536	39.85
雑損失	23537	0.48
減価償却費	725283	14.94
合 計	\$48,548.98	10000

損益計算書に依れば、組合事業損益が全体の半数に満たず、収益 僅かに 21.37% 損失に於いて 31.25% である。組合本来の事業の停滞を意味している。事業収益の意外な低率は、販売部及購買部にその原因の主なるものを持ち、今後徹底して強化し、通常の状態に復することを 目途とすべきである。特に組合活動の最大の財源となるべき、販売部収益は、その事業損失を差引き収支に於いて僅かに 1.67% の収益比率を みるのみであつて、組合運営上まことに重大な問題である。

事業外収支に於いては、行政部門に於いて、収支 \$ 1,072.41 の不足額を生じ、更に本不足額に加えて、行政関係未収金 \$ 1,234.33 を加算すれば、計 \$ 2,306.74 が組合本来の経済活動部門に影響を及ぼしていることとなる。行政及経済の混然一体となつて運営されている現在、さらに詳細に分析すれば、一般経費の中にも可成行政関係費用が含まれていると思われる。1963 年度依り行政関係は、組合経理上別個の勘定科目に区分され、以上の資料を得たが、更に検討し行政及経済活動の分離を研究せねばならない。

一般経費が 25.16% は事務量の膨張に比し、1960 年度 (28.32%) 1961 年度 (推定 35%) に比べて遞減を示した。昨年整備委員会よりの勧告もあり、経費の節減に努力は進められている。

本年度に於いて (1963 年度) 一般経費の中約 50% が S 市出張経費であつた。S 市出張所維持のため経費 \$ 4,168.45 は販売部益金 \$ 3,766.98 を上廻り、販売部純益金 (販売益金 \$ 3,766.98 - 販売部損失 \$ 2,954.91 = \$ 812.07) - (注) 販売部損失とは、グレース社への出荷数量不明のための精算決差 (1962 年度) S 市出張所に於ける白米盗難等が含まれている。一及購買部益金 \$ 4,626.22

計 \$ 5,438.29 に対して、76.65%を占るに到つては、その存在価値を失うものである。64年度よりの日生連発足に伴い、閉鎖されることとなつた。

最後に組合活動の中心となるべき、販売部及購買部について当期に於ける実績を検討する。

イ 販 売 部

1959年度、組合は産米を指定農産物と定め、総会の決議により、売上高の3%を組合手数料と決定し、以後組合の最も大きな財源として運営されて来た。当然産米は、組合共同販売により、販売され、共同販売による産米を担保として、旧会社より短期営農融資が行われて来た。そもそも短期営農融資は年間に於ける、米価の極端な変動による損失を極力妨ぎ、低価格にて販売せざるを得ない状態を資金により援助するものであつた。当然これら融資に対する担保として、産米が指定され、共同販売は、価格の統制による販売効果と、同時に担保物の保全を目的とされたものであつた。特に組合に於いては短期融資実現迄の数年間、組合運営費の財源は購買部利益のみによつていたが、この変則的方法も、初期に於いては、致し方のないものであつた。その後理事会総会に於いて、屢々討議され、販売手数料(直接税)により購買部利益をカバーし購買品の低価販売が企画されて来た。その後1962年度より行政部門の設置に伴い、販売手数料を1%追加し、4%をもつて共販手数料と決定され今日に到つている。

上記の経緯により運営されて来た、販売活動は、今期決算書に於いて極めて予想外の数字を示しており、組合員の誠意が甚だしく疑われる結果となつている。

すなわち、決算表による販売手数料収入は \$ 4,228.65
 (BS 50,743,880)であつた。この数字は4月1日以降であるので、
 1962年産米の販売手数料算出のために、1月~3月分手数料収入
 \$ 4,286.6 (BS 5,143,910 組合事務局調)を加算すると、1963
 年度に於いて受取つた1962年度米販売手数料合計は
 \$ 4,657.31 (BS 55,887,790)となる。販売手数料より販売総額
 及販売量を逆算すれば

$$\text{総販売高} \quad \frac{\$ 4,657.31}{4} \times 100 = \$ 116,432.75$$

$$\text{販売数量} \quad \begin{array}{l} \text{1月当平均} \$ 1.25 \text{ (BS 15,000) として} \\ 93,146A \text{ (23,286.99)} \end{array}$$

※組合事務局調べ販売単価平均は白米 1A BS 14,829 (\$ 1.24)

碎米 " 5,254 (\$ 4.44) 白米の
30%

上記により組合を通して販売された産米はわずかに 93,146A
 (23,286.99)にすぎない。

1963年4月組合より報告された出荷予想量は、約 40,000.99
 160,000Aである。4月には殆んど収穫も終つており、この数字
 をほぼ妥当なものとすれば、今期に於いては、組合を通したものは、
 5.821% 抜け売りを行つたもの、4.179% という数字となり、共
 販態制の崩壊と、旧債に対する担保米の勝手な処分が行われたことと
 なる。その原因の中には、一部個人商店への青田売りも相当量含まれ
 ておる見込みである。100,000A が完全に組合を通した場合、売上
 総額は約 \$ 200,000.00 手数料収入は \$ 8,000 となる。この数字と
 しても、例年組合より提出される事業予算書の数字よりみれば、はる

かに低いものである。ちなみに、各年度の予算書をみると販売手数料収入予算は1960年(当時3%) \$ 5,500 1961年 \$ 13,333 1964年 \$ 11,000とは、はなはだ妥当な数字が予算として計上されているが、実績は常に遙かに下廻っている。このことは、組合の資金計画にも大きな悪影響を与えているものである。

この予想外の減収入により組合経営はまったく資金枯かつし、悪循環を繰り返して来たのである。これは、そのまゝ次の購買部活動にも影響を及ぼしていることは云う迄もない。

更に事務機構の不備による損失金 \$ 2,954.01 を差引き純利益は、僅かに \$ 812.07 にとどまり経常費の一月分にも満たぬ状態であつた。今後完全な事務構により日生連と連絡を保ち、これらのロスを防ぎ、組合員の申告による出荷量に応じた販売手数料の収入状況を常に把握し又販売手数料収入の個人別リストを作成して申告量と対比し、不良組合員に対しては厳重な勧告を行うべきである。事務機構の確立により、その他、賦課金、共済基金、売掛金、仮払金等の自動的精算を販米精算と同時に進行しよう、努めるべきである。

ロ 購買部

購買部活動も、上述の種々の原因により常に資金は不足し、在庫品は乏しく、悪環境の連続であつた。しかしながら購買部資金とは、当期決算書によると欠損金の自己資本を上廻る現在、購買部回転資金というものはなく、融資により借入金の一部流用に他ならないものであつた。決算表に計上された棚卸資産すら、実は購買部資産ではなく、借入金の一部でしかない。この様に資金を持たぬ購買部にとっては、そこに仕入計画、資金計画の立つはづはなく、必要に迫つてS市の店頭

より少量づゝ補給するといつた、行きあたり主義であつた。そこには団体組織のもつ強さはなく、移住地内五ヶ所に在る各販売所は、全くその規模に於いて個人商店のそれと大差ないものであつた。しかも組合は個人商店と異り、経営と利潤追求のみに集中することは出来ず、在庫期間の長期に亘るものも一応は備えておかねばならず、営利一本の個人商店に対し商品回転率に於いて、はるかに遅く立ち打ちは出来ない。このことは5キロに出現した個人商店の開店により直ちに数字となつて表れ、後述図表の様に売上げが急激に減少している。更に組合經常費に対する財源ねん出のため、止むを得ず付加する利率は、購買部発足当時の利率20%と変りなく、初期の目標であつた販売部利益による購買部利率の低減は実現されず、むしろものによつては、個人商店に押されている状態である。

更にちががつかたみかたをすれば、個人商店は組合商品の価格と動きを眺めながら商店主個人の自由採量により、ゆうゆうと商売を行つてゐるとも云える。勿論、移住地内に於ける商業活動も将来は必ず必要なものであり、その存在を否定するものではないが、ややもすれば、組合の弱体の間隔を狙つて、中間搾取の傾向に陥いる事にブレーキをかけねばならない。すなわち組合は、組織の力をもつて常に最高価格を表示し、組合員の利益を擁護する形にせねばならない。しかしこのために最も必要なものは資金である。現在組合購買部は自己資金を持たず、借入金の流用によつて、その場を継ぐ状態では、個人商店に押されることは当然であつて、全くその主旨と相反する結果となつてゐる。組合は、早急に購買事業資金を別途調達する計画を持つことは、目下急務である。

本期に於ける購買活動を分析すると、次の数字を得る。

売上総額		\$ 35,125.89
仕入 "	\$ 30,308.38	
期首繰越高	2,549.17	
期末棚卸高		4,095.29
販売総利益	6,364.12	
販売経費	1,732.35	
当期益金	5,581.77	
イ 日平均在庫高	\$ 3,458.69 (BS 41,504,286)	
1月平均一販売所当在庫	\$ 628.85	
ロ 月平均仕入高	\$ 3,190.36	
1月平均一販売所当仕入高	\$ 580.00	
ハ 売上原価	\$ 28,761.78	
ニ 売上原価率	\$ 122.13%	
ホ 月平均販売額	\$ 3,697.46 (BS 44,369,548)	
ヘ 一家族当平均購買額(月当)	\$ 13.74 (164,942.55) 269	
<p>家族として算出現地労働者の購買量も可成あり、その数は不明であるが、これを差引けば、一家族当組合員の利用額は、極めて少い。一家族当月平均購買額を\$ 25 (BS 300,000) とすれば、月平均購買額は\$ 6,725であり、ホとの差\$ 3,027.54は他に流れているとみるべきであらう。しかし、これによる利益は月間\$ 545.95である。</p>		
ト 購買部月別売上比率表		
<p>移住地内に在る5ヶ所の中、個人商店に影響を受けた、第1、</p>		

第2,販売所及購買部全体の年間売上高に対する各月の百分比を示す。

